一般財団法人姫路市まちづくり振興機構

『経営計画２０２２』
ダイジェスト版

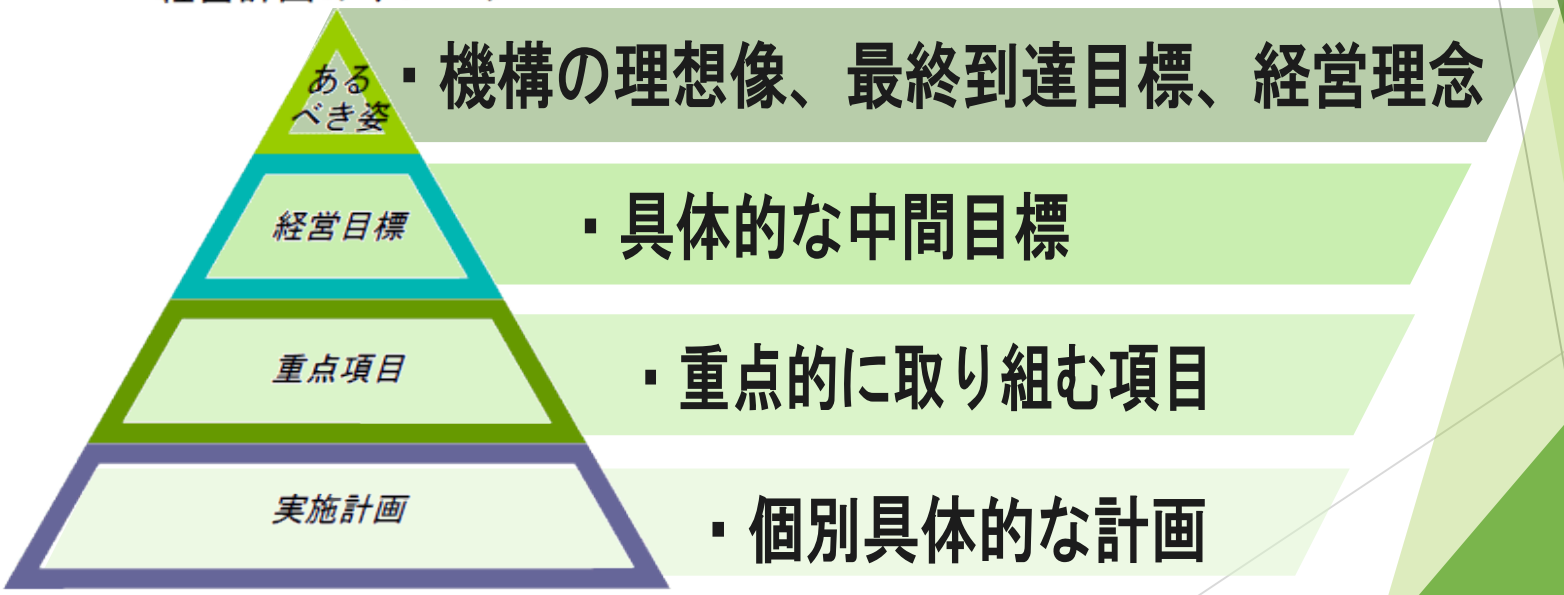
（２０１８年度～２０２２年度）

●経営計画の構成

あるべき姿（経営理念）

姫路市政への継続的な貢献を軸に、
市民のための理想のまちづくりを実現する。

経営計画のイメージ



●計画期間

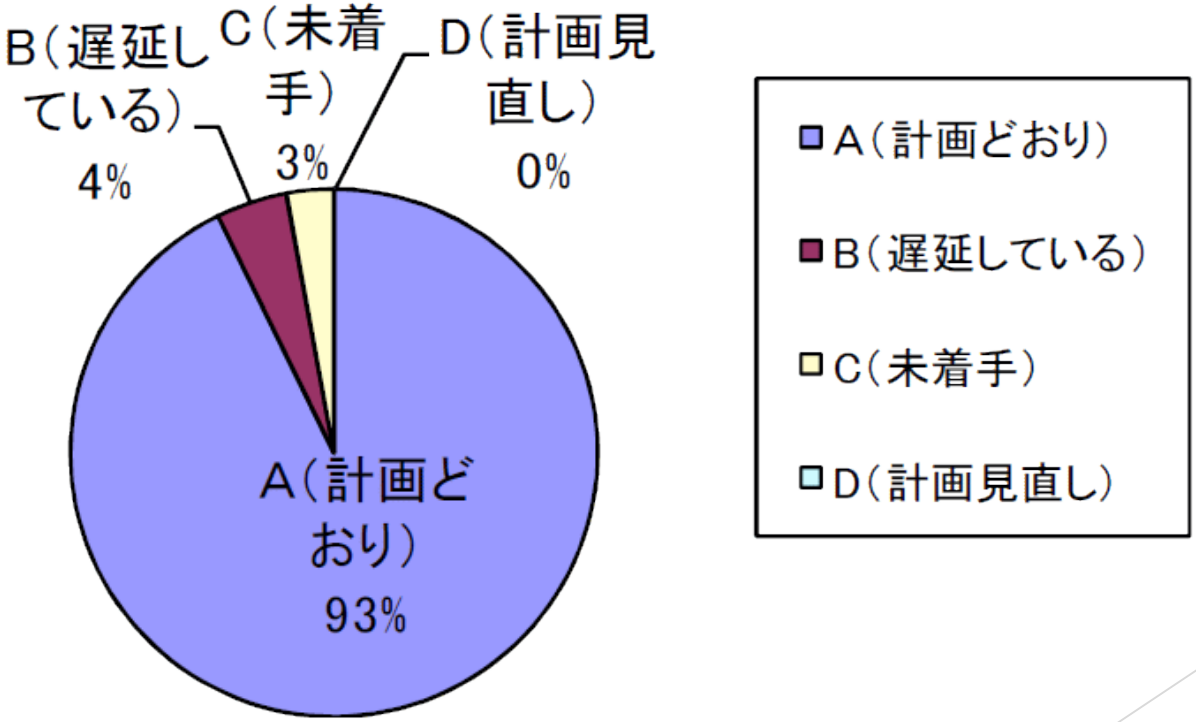
2018 → 2019 → 2020 → 2021 → 2022

・５年間（2018年度～2022年度）

従前計画の「３年間」から、
先を見越して腰を据えた
中長期的な経営戦略を策定するため、
「５年間」に変更

●経営計画２０１５の進捗状況

（全６９件）



●現状と課題

客観的状況

①一般財団法人への移行
②公共サービスの担い手の変化
③「スポーツ都市・ひめじ」の推進
④姫路都心部（姫路駅周辺）の高次都市機能化
⑤姫路城グランドオープン後の観光客動向の変化
⑥手柄山中央公園の再整備
⑦地方創生としての「ひめじ創生戦略」の策定
⑧情報技術革新がもたらすライフスタイルの変化

●現状と課題

財務状況

①財務の安定性は比較的高く健全な経営
②駐車場事業等による収益を財源とした
　公益事業の実施
③姫路城グランドオープンにより一時的に
　予算規模は拡大するも今後縮小傾向の見込み
④今後も公益事業を安定的に継続していくために
　新たな財源の確保が必要
⑤赤字事業については廃止も含め検討が必要

●現状と課題

強み・特徴

①姫路市の最大の外郭団体
②豊富な経験と多様な人材の活用
③一般財団法人としての「自由」「柔軟」
　「迅速」な事業展開
④公益的団体として姫路市との協働事業の展開
⑤地域や各種団体との連携
⑥強固な経営基盤

●現状と課題

課題・問題点等

①部門間の連携による組織力の強化

②職員の育成

③指定管理者制度への対応

④安定的な財源の確保

⑤魅力ある情報発信

●経営目標

・2つの経営目標と１０の重点項目により『あるべき姿』を目指す。

あるべき姿（経営理念）

姫路市政への継続的な貢献を軸に、市民のための理想のまちづくりを実現する。

経営目標1（事業）
まちの活性化につながる事業展開

経営目標2（組織）
魅力ある人材を育む組織づくり

事業の視点	１０の重点項目	組織の視点
1.新たな公共サービスの在り方の追求		1.部門間連携の強化
2.魅力的な事業によるまちの賑わいの創出		2.機構のイメージと情報発信力の向上
3.健全な経営基盤づくりと収益力の向上		3.人材の養成と研修等支援制度の充実
4.公共空間の整備計画への参画		4.おもてなし力の向上
5.未来の姫路のまちづくりの担い手の育成		5.健全な組織運営と管理会計の強化

●経営目標１
～まちの活性化につながる事業展開～

経営目標	重点項目	実施計画
1.まちの活性化につながる事業展開	1.新たな公共サービスの在り方の追求	新しいまちづくり事業の探求、行政や民間団体との協働、それぞれの特性を活かした公共サービス
	2.魅力的な事業によるまちの賑わいの創出	観桜会・観月会等既存イベントの充実と新規イベント、事業の創出
	3.健全な経営基盤づくりと収益力の向上	自己施設の経営改善と新たな自主財源の創出による収益の確保
	4.公共空間の整備計画への参画	手柄山中央公園や姫路駅周辺エリアにおける参画
	5.未来の姫路のまちづくりの担い手の育成	スポーツ・緑化等、当機構のノウハウを活かした姫路の魅力を発信し、姫路のファンづくり

●経営目標２

～魅力ある人材を育む組織づくり～

経営目標	重点項目	実施計画
2.人材の魅力を育む組織づくり	1.部門間連携の強化	プロジェクトチームの充実化、ヒト・モノ・情報の連携、イベントを通じた連携
	2.機構のイメージと情報発信力の向上	広報活動の強化、機構５０周年等の周年事業、組織力の向上
	3.人材の養成と研修等支援制度の充実	優秀な人材の採用、研修計画の策定、人間力の向上、提案制度
	4.おもてなし力の向上	おもてなし事例報告、おもてなしマイスター制度、職員満足・利用者満足の向上
	5.健全な組織運営と管理会計の強化	財務の健全性の維持、コスト意識の向上

●特色となる事業

- 経営計画2022では・・・

より理想に近づけるべく
夢と理想にあふれる計画を策定

↓

目玉・特徴となる事業をご紹介

●特色となる事業

- (1) まちと共に５０年
  ～より信頼される機構を目指して～

【主な事業】
- 機構設立５０周年記念事業の実施
- 手柄山温室植物園40周年記念事業
- その他周年事業の開催

●特色となる事業

- (2)人間力豊かなヒトが活きる機構づくり

【主な事業】
- 適正な職員採用
- 研修計画の策定と実施
- 自分の仕事プレゼンテーション

●特色となる事業

- (3)姫路の持つ魅力再発見事業の実施

【主な事業】
- 手柄山の魅力再発見事業
- 城下町の歴史発見事業

●特色となる事業

- (4)観光都市ひめじに相応しいおもてなし力の強化

【主な事業】

- 駐車場施設の管理運営
  （接客マナーの向上、観光情報の提供）
- 大手門茶屋の観光客の利便性対応
- おもてなし事例報告（おもてなしマイスター制度）
- おもてなし力の向上
  （姫路の魅力の学習等）

●特色となる事業

- (5)緑化意識の醸成

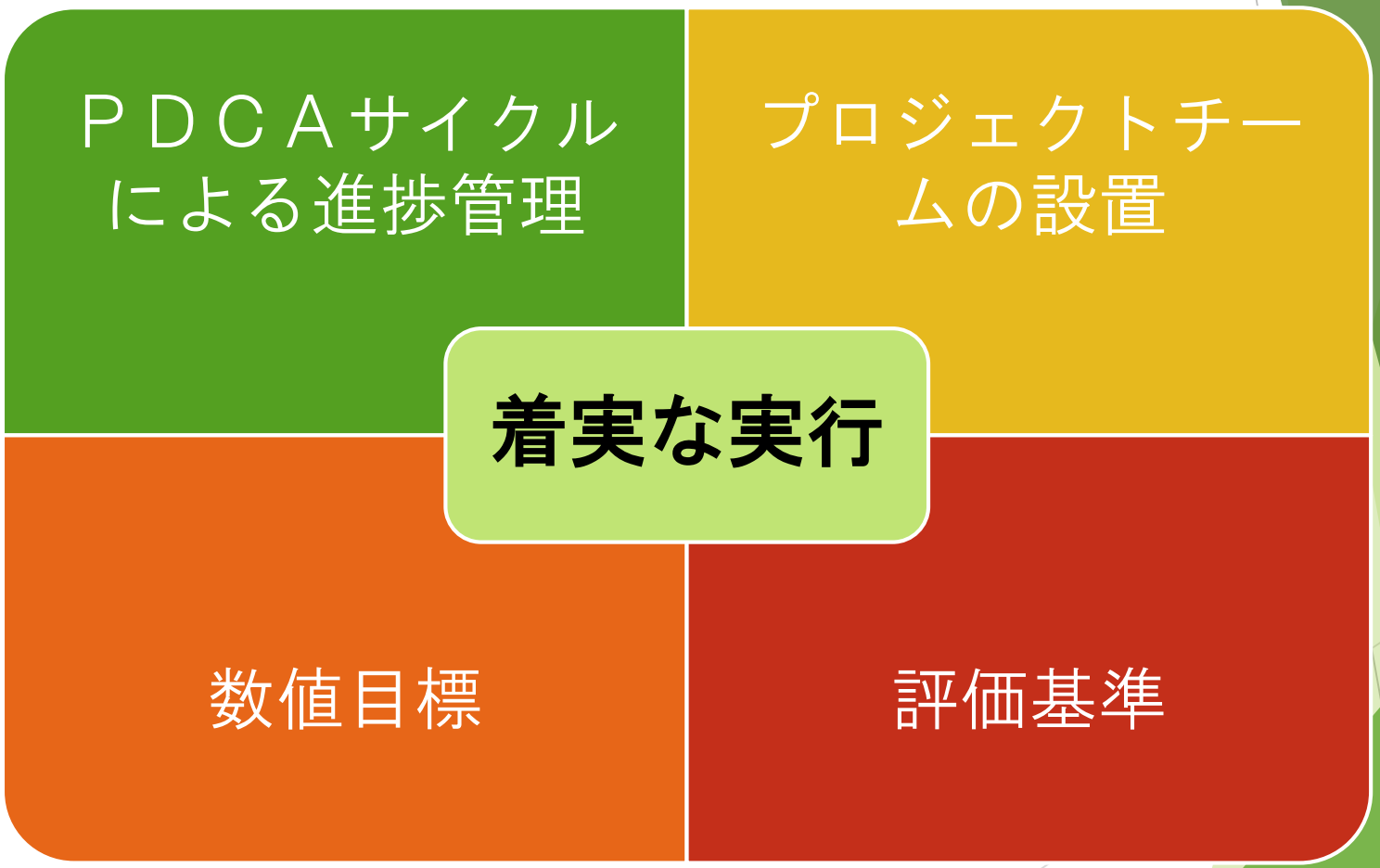
【主な事業】
- 緑化普及啓発イベント開催
- 緑化普及啓発事業の実施
- ワークショップの開催

●特色となる事業

- (6)する・みる・ささえるスポーツの推進と情報の一元化

【主な事業】
・するスポーツの普及
・みるスポーツの普及
・ささえるスポーツの普及

●計画への取組み方



●数値目標

数値目標等の設定が可能な事業

↓

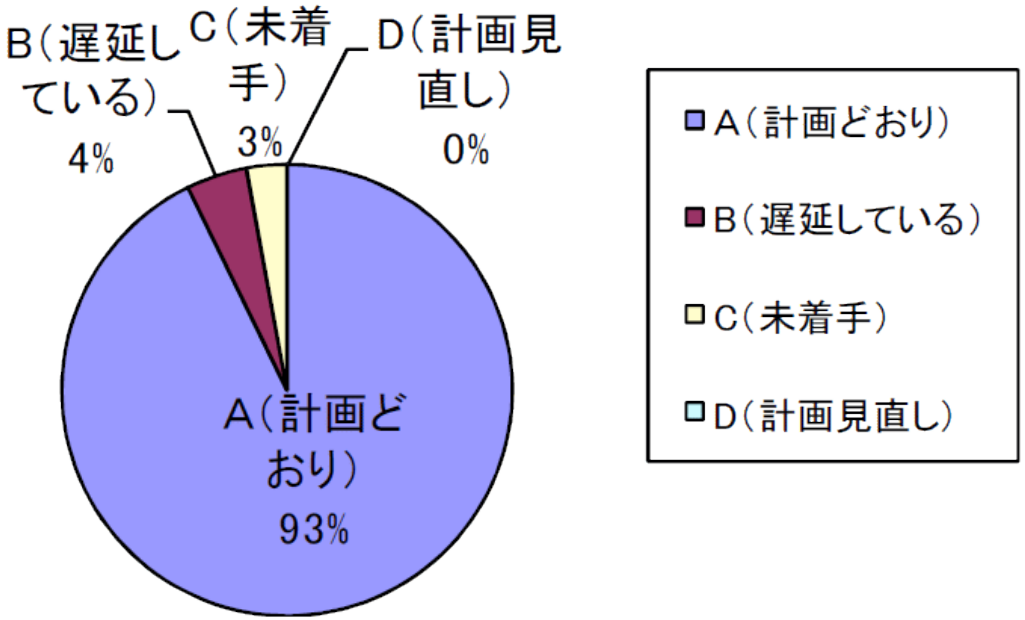
部・室・施設毎に
数値目標等を設定

目標が数値で表されるので、
ゴールが明確になり、
到達したかできなかったかの評価も明確に

計画期間中に目標数値の変更の必要が
生じた場合は、
計画期間途中であっても適宜見直し

●評価基準

従前計画では、Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄの４段階評価



実施しなかった場合、検討の有無が分からない
実施した場合、どの程度できたのか曖昧
（自分に甘い評価になりがち）

●評価基準

評価項目	評価基準
実施状況	A　実施した（→達成状況の評価に移る） B　検討したが実施には至らなかった C　検討も実施もしなかった D　廃止した
達成状況 (各部室で定めた目標数値を基準とする)	a　計画以上に達成できた （目標数値設定している場合は、目標数値以上の場合） b　ほぼ計画どおりに達成できた （目標数値設定している場合は、目標数値の８５％以上の場合） c　計画には及ばなかった （目標数値設定している場合は、目標数値の５０％～８５％の場合） d　計画には遠く及ばなかった （目標数値設定している場合は、目標数値の５０％未満の場合）

→Ａａ、Ａｂ、Ａｃ、Ａｄ、Ｂ、Ｃ、Ｄの７段階評価を行う。

実施の有無だけでなく検討の有無の評価も行い、
更に実施したものについては達成状況を評価することで、
どれだけ実施できたかの判断基準を明確化